

2013年5月31日

電子ペーパー搭載の「次世代型中づくり広告」実証実験を新潟エリアで実施！ ～“マンガ・アニメのまち にいがた”とのタイアップ～

- 6月5日（水）より、新潟エリアにて、新潟市が推進する“マンガ・アニメのまち にいがた”と連携した電子ペーパー搭載の「次世代型中づくり広告」の実証実験を行います。
- 電子ペーパー搭載中づくり広告は、当社と大日本印刷株式会社との共同企画開発によるものです。
- 実証実験では、ハード面の性能検証のほか、お客さまへのアンケート調査などを行い、次世代広告メディアとしての可能性を検証します。

■実証実験概要

1. 実施期間 6月5日（水）～7月4日（木）
2. 実施箇所 JR 東日本新潟支社エリアで運行する、E127系電車 1編成 1箇所
(信越線・白新線・越後線・羽越線)
3. 中づくり広告デザイン



電子ペーパー部分



掲出イメージ

4. 電子ペーパー仕様 中づくり広告としての使用に適した、フレキシブルな薄型電子ペーパーを使用します。
サイズ：縦 217.6mm×横 163.2mm×厚み 0.8mm
重さ：表示部 約 50g、制御部 約 800g（電池込み）
5. 表示コンテンツ
 - ・新潟ゆかりのマンガ家のコミック作品
 - ・新潟市マンガ・アニメ情報館関連コンテンツ

■「マンガ・アニメのまち にいがた」について

新潟市は、赤塚不二夫先生、水島新司先生、魔夜峰央先生、高橋留美子先生など数多くの有名マンガ家やアニメクリエイターを輩出するとともに、アマチュアによる創作活動や教育機関による人材育成も盛んにおこなわれているなど、マンガ・アニメ文化が根付いた都市です。また、「にいがたマンガ大賞」「がたふえす（にいがたアニメ・マンガフェスティバル）」などのイベントや観光循環ラッピングバス「ドカベン号」「犬夜叉号」の運行といった様々な取り組みも行ってきました。

そこで、国内外に向けた更なるアピールとマンガ・アニメ関連産業の持続的発展を目的とし、2012年3月に「マンガ・アニメを活用したまちづくり構想」を策定しました。

この構想をもとに、2013年、市中心部に「マンガの家」「マンガ・アニメ情報館」という2つの体験型拠点施設を開設し、産・学・官・民の連携により「マンガ・アニメのまち」としての魅力を高めることで地域の活性化を図っています。

■表示コンテンツについて

①新潟ゆかりのマンガ家のコミック作品

- ・『ハイスクール！奇面組』（新沢基栄 柏崎市出身）第1巻 全13話
第1話から13話までを、1日1話ずつ表示。約30秒ごとにページを切り替えて表示。
1話7～10分程度で完結。
- ・『とろろでここどこ』（古泉智浩 新潟市（旧亀田町）出身）全36話
約30秒ごとにページを切り替えて表示。各話は2ページ構成で、1分で1話完結。
- ・『新潟市マンガ・アニメを活用したまちづくり構想』
(陽華工ミ JAM日本アニメ・マンガ専門学校（新潟市）出身)
約30秒ごとにページを切り替えて表示。8分程度で完結。

②新潟市マンガ・アニメ情報館関連コンテンツ

- ・「マンガができるまで」（題材：『寿司ガール』安田弘之 新潟市（旧巻町）出身）
下絵から完成までの全10工程を順番に表示し、マンガ制作の様子をビジュアルで分かりやすく紹介。
約30秒ごとに1工程ずつ切り替えて表示。
- ・「マンガの家」「マンガ・アニメ情報館」リーフレット

※画面切り替え頻度は、7:00～10:00 および 17:00～22:00 は30秒に1回程度、
それ以外は1時間に1回程度になります。

[電子ペーパーについて]

電子ペーパーは、必要に応じて表示内容を書き換えることができ、書き換える時以外は電力が不要な表示機です。一度表示した画面は電力がなくてもそのまま保持できるため、省エネ・節電に最適なメディアであるとともに、十分な電力を確保することが困難な場所での長期間使用に適しています。また、電子ペーパーは薄く、軽く製造できる構造を持つため、既存の建物や設備に簡単に取り付けることができるなど、これらの特長を活かして、さまざまなシーンでの利用が期待されています。